

---

---

# 教育総合センター

## だより

---

---

NO. 93

平成16.9.1

### 通学路を美しく（豊かな感性は環境から）

尼崎市立武庫北小学校  
校長 伊藤 勲



青少年に係わる事件が起こるたびに「命の大切さ」をどう教えるか、「心の教育」をどう推進するかと言うことが大きな問題になる。これらの問題は「豊かな人間性を育てる」という教育にとっては普遍的課題であって、私たち教師はすべての教育活動を通じてその育成を願っていると言っても過言ではない。

「人間性」、その基になる「感性」を育てるためには何よりも「環境」が大切ではないだろうか。「環境」と言っても範囲が広く、教師・保護者などの人的な環境もあれば、自然環境や社会環境さらには物的な環境などもある。

「豊かな感性」は子ども達が毎日接するさまざまな環境の中でゆっくりと少しずつ身に付いていくものだと思っている。

従って子どもにとっての環境は、自然のあるがままの姿も大切だが、それを「よい教育環境」としていくためには人為的、意識的に整えていく必要がある。

例えば、学校や学校周辺の通学路は、子ども達が毎日目にする最も身近な環境である。

子ども達は通学路を通りながらいろいろなことを自然に学んでいる。ゴミが散乱した道を毎日見ながら通っているのと、ゴミがなく美しい草花が咲いた整然とした道を毎日見て通うのとでは、心に蓄積していくものに大きな違いが生じていくと思う。

そんな思いから学校の周囲のゴミを拾っている。以前はゴミの多かった道が少しずつきれいになって、ゴミを捨てる人も少なくなってきた。

今、通学路の一角に地域の方々が四季折々の花を植えてくださっている。また、学校の西側の道を一人で美しく整備してくれた人がおられた。子ども達にその話をしたら、その人達にお礼を言いに行った子どもがいて大変喜んでくださった。

目に見える大きな成果は現れないかもしれないが、小さなことでも何か子どもの心に美しいものが残ってくれればと願っている。

禅の「公案」に「照願脚下」という言葉がある。さまざまに解されているが「自分の存在基盤をしっかりと見つめ地道に身近なことから始めること」と解し実践に生かしたいと思っている。

## 情報教育が目指すもの

### はじめに

夏休みに入り、教育総合センターは研修を受ける先生方で大盛況です。講座によっては視聴覚室に入りきれないほどでした。情報教育もPC(コンピュータ)の台数に制限があるため、受講をお断りしなければならないという講座が続出しました。

情報教育研修は、大きく分けて、つぎの3つに分類されます。

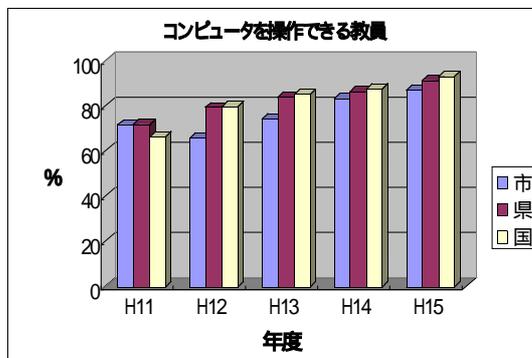
- Step1 ワープロ、表計算等のソフトの習得
- Step2 情報収集及び発信のスキルアップ  
(インターネット、プレゼンテーションソフト、HP等)
- Step3 授業等での情報機器の積極的利用  
(コンテンツ、プレゼンテーションソフト)



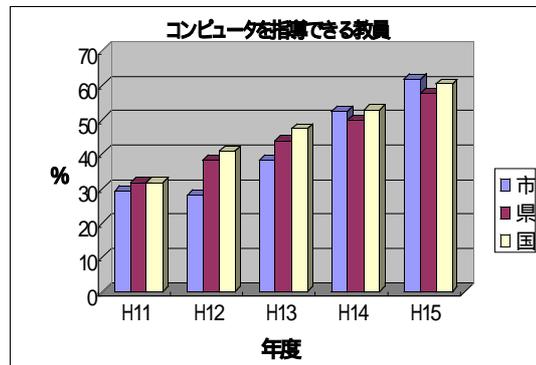
夏の研修風景

### PCを使える先生、指導にPC利用できる先生

教育総合センターではPCを操作できる、そして、PCを使って指導できる先生を増やすことを大きな課題にしています。そのため、研修講座を実施するだけでなく、指導主事が学校へ出向き校内研修のお手伝いをしています。過去数年間の国、県、市3者の比較をグラフで表すと次のようになります。



図から先生のスキル(熟練度)が年々アップしていることが分かります。(文部科学省の調べ)



せっかく身につけたスキルをその場限りで終わらせることなく、授業や業務に是非活用してください。

### 情報教育が目指すもの

「情報教育」=「PC教育」ではありません。情報教育が目指すものはあくまでも情報を収集する力、整理する力、分析する力そして表現する力の育成です。PCはそのための道具です。

明治維新の立役者となった坂本竜馬は、犬猿の仲だった薩摩と長州の手を握らせ倒幕の推進力をつくり上げました。その竜馬の人となりや司馬遼太郎は著書「竜馬がゆく」で次のように表しています。

.....西郷は沈黙した。竜馬が意外な情報通であることに驚いている。竜馬の特技とっていい。.....(中略).....かれらは、「竜馬愛すべし」といって、様々なことを教えた。竜馬には、それをさせる独特の愛嬌があった。どんな無口な男でも、坂本竜馬という訪客の前では情熱的な雄弁家になる、といわれていた。ことばをかえていえば竜馬は、異常な取材能力を持っていたとっていい。これが特技であった。自然、かれはいわゆる志士のなかでは抜群の国際外交通であった。.....

これまでもそうだったようにこれからも教育の根本は、子どもたちに「物事の本質をつかむ力」「折衝能力」そしてなにより「人間的魅力」をつけてもらうことです。このような力を備えた上に、PCリテラシ(コンピュータ活用能力)が加わればまさに鬼に金棒です。そのような子どもたちを育てたいものです。

(情報教育担当係長 上田 勝則)

## スタートした10年経験者研修

### 10年経験者研修とは

10年経験者研修は、平成14年6月教育公務員特例法が一部改正されたことに伴い、平成15年度から実施しています。

10年経験者とは、教諭として在職期間が10年に達した者で11年目の教諭を表しています。この研修の目的は、教育公務員特例法第24条の規定に基づき、個々の教諭の能力、適性やニーズに応じて、必要な事項に関する研修を実施し、指導力、資質の向上を図ることにあります。

実際の研修内容は、当該年度中に40日間程度の研修を実施するものとなっています。研修には校外研修と校内研修の2種類があります。

#### 1 校外研修

共通研修並びに個々の教諭等の能力、適性等に応じた教科指導、生徒指導等に関する研修及びその他の教育課題に関する研修を長期休業期間中等に20日間程度実施します。教科指導や生徒指導等研修の中では少人数（グループ）研修も実施します。

#### 2 校内研修

実践を通じた授業研究等及び特定課題研修とし、課業期間中等に20日間程度実施します。

まだ実施されてまもない研修ですが、この研修を通じて、子どもたちのために魅力ある教員としての力量を高めていくよい機会として、また、教員のライフステージに応じた実のある研修になるよう期待しております。

（研修担当指導主事 谷口 陽三）

### 体験報告

10年経験者研修を終えて

尼崎市立七松小学校

教諭 江頭 志真

1年が経つのは、本当に早いものである。昨年の夏は、10年経験者研修の計画に従って、いろいろなところに飛び回っていた。

研修内容は、教科・生徒指導・選択の3つの領域でそれぞれ時間数が決められていたため、偏ることなく計画及び実施ができたように思う。

なかでも「但馬やまびこの郷」での研修は、こういう機会だからこそ経験できた研修である。不登校児のための施設で、遠方であることや自分の学級に該当する児童がいなければなかなか自主的に参加することがなかったのではないかと思う。特に、講師の先生の「不登校児に対する指導援助の進め方」の講話や兵庫県内の先生方との交流会における情報交換は、大変参考になった。

また、グループ研究では、授業の見せ合いや生徒指導上での似通った悩みを出し合っていくうちにより関係が作れたことは、今後の実践の大きな支えになっていくと思う。

なにより自分が経験したいと思っていた研修に取り組めたことが、私自身の大きな成果である。これからも、教師としての指導力を身に付けていくためにも、さまざまな研修に取り組んでいきたいと考えている。

## 教育情報コーナーへどうぞ

二学期は、教育活動の充実の時です。情報コーナーを大いにご活用ください。  
新着図書の中から、今話題の本をご紹介します。

### 【ADHD・LD・自閉症などの子どもたちの理解と支援について役立ちます。】

- ・『十人十色なカエルの子～特別なやり方が必要な子どもたちの理解のために』 落合みどり著
- ・『高機能自閉症・アスペルガー症候群～正しい理解と対応のために』 内山登紀夫他著
- ・『通級の学級におけるLD・ADHD・高機能自閉症の指導つまずきのある子の学習支援と学級経営』 吉田昌義他著
- ・『こうすれば伸びる自閉症児の指導法』 上岡一世著
- ・『LD・ADHD特別支援マニュアル～通常クラスでの配慮と指導』 森 孝一著
- ・『ADHDサポートガイド～わかりやすい指導のコツ』 森 孝一著
- ・『LD・ADHD・高機能自閉症 就学&学習支援』 森 孝一著
- ・『特別支援教育のための精神・神経医学』 杉山登志郎他著

### 【今、大きくクローズアップされている「特別支援教育」についてお探しの方へ。】

- ・『図説 特別な教育的ニーズ論 その基礎と応用』 真城知巳著
- ・『特別支援教育入門 教師の専門性をいかに高めるか』 大沼直樹著

### 【その他、お役に立つ本、いろいろ。】

- ・『中学校「選択理科」の特選教材120と展開例』 三輪洋次著
- ・『基礎学力を高める音読・朗読・暗唱ステップワーク』 瀬川榮志他著
- ・『算数楽しく 授業術』 坪田耕三著
- ・『小学校英語活動を創る』 松川禮子著
- ・『小・中学校子どもが優しくなる秘けつ～3つの質問(内観)で心を育む』 石井 光著
- ・『ハンドブック学級担任の基礎』 小島 宏著
- ・『困難な現場を生き抜く教師の仕事術』 野中信行著
- ・『確かな学力が身に付く学習のしつけ』 鹿児島市立田上小学校著

紹介の本は、情報コーナーにあります。閲覧及び貸出しもしています。  
また必要な図書・資料等のお問い合わせがありましたら、お気軽にお尋ね下さい。

(教育情報コーナー 担当・幾田)

## 開館時間のご案内

平日： 午前9時から午後9時  
ただし、教育相談は、  
午後5時15分までとします。  
なお、次の日は取り扱いいたしません。  
【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】

発行	尼崎市立教育総合センター 〒661-0024 尼崎市三反田町1-1-1 06-6423-3400
発行者	倉橋 忠
題字	教育委員長 岡本元興